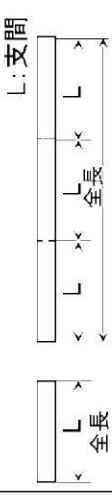
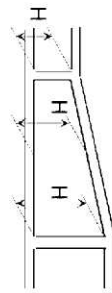
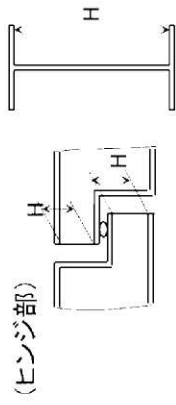
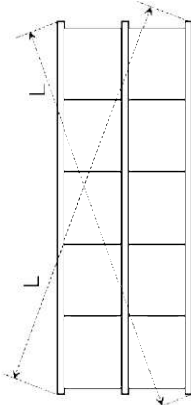
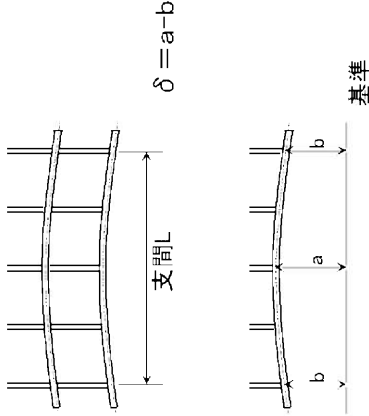
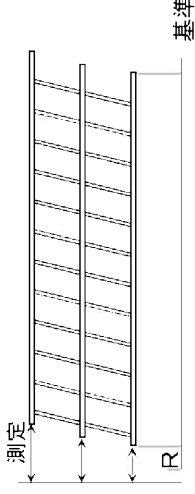
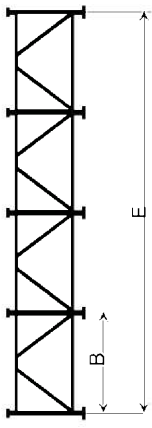
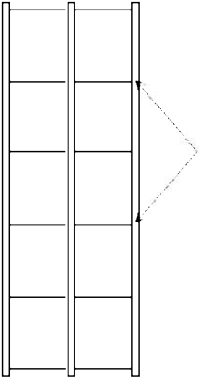


測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
鋼構造物 (1) 仮組時	支間及び全長	$\pm(10+L/10)$ $L=m$		国交省土木工事必携P1-37 
	桁高 $H \leq 1m$	± 2		
	$1m < H \leq 2m$	± 3		
	$2m < H$	1m又はその端数を増すごと に $\pm 3mm$ に1mmを加える		
	平面対角線長 $L \leq 10m$	± 5		
	$10m < L \leq 20m$	± 10		
	$20m < L$	$\pm[10+(L-20)/10]$ $L=m$		

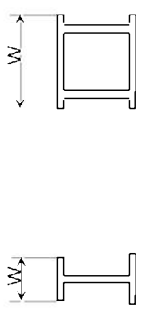
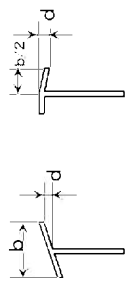


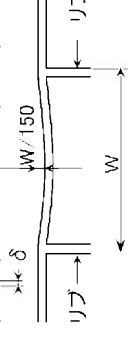
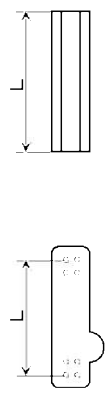
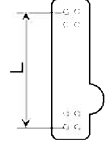
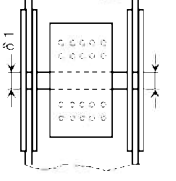
※架設時は道路橋示方書に準ずる

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
鋼構造物 (2) 仮組時	桁の通り $L \leq 30m$	$\delta = \pm 5$		
		$\delta = \pm 10$		
	$\delta = \pm 15$			
	$\delta = \pm 20$			
	支承線の通り	± 5		

※架設時は道路橋示方書に準ずる

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要	
工種	測定項目				
鋼構造物 (3) 仮組時	主桁間隔	$\delta = \pm [4 + (B - 2) \times 0.5]$ $B \leq 2 \quad \pm 4$ $B > 2 \quad \pm (3 + B / 2)$		 <p>鋼道示P434</p>	
	多主桁における 面耳桁間隔(E) E ≤ 10m	±5			
	10m < E ≤ 20m	±10			
	20m < E	±[10 + (E - 20) / 10] E = m			
	製作キャンバー L ≤ 20m	±5			 <p>測定位置</p>
	20m < L ≤ 40m	-5 ~ +10			
	40m < L ≤ 80m	-5 ~ +15			
	80m < L ≤ 200m	-5 ~ +25			

※架設時は道路橋示方書に準ずる

測定対象		規格値 (単位mm)	管理基準	摘要
工種	測定項目			
鋼 構 造 物 (4) 仮組時	フランジ幅 $W < 1m$ $1m \leq W < 2m$ $2m \leq W$	± 2		 <p>ただし、現場継手部は、相對誤差を規格値の1/2とし、3mmを超えてはならない。</p>
		± 3		
		1m又はその端数を増す毎に±3mmに±1mmを加える		
	フランジ直角度	$\frac{d}{b/2} \leq 1/100$		
	桁鉛直度 (桁高h)	$3+(h/1,000)$		
	桁の平面度ウェーブに対して (ウェーブ高H)	H/250 H=mm		
	桁の平面度フランジに対して (フランジ幅W)	W/150 W=mm		
	部材長 $L \leq 10m$	± 3		
	$L > 10m$	± 4		
	現場継手部の隙間	3mm		 <p>銅道示P435 δ: 間におけるδ1・δ2のうち大きいもの</p>

※架設時は道路橋示方書に準ずる